



歴史ある児童養護施設で クリスマス会を長年開催

岡山県 株式会社 成通
「長期にわたる社会貢献活動」事業



株式会社 成通
代表取締役
千原 行喜さん



サンタクロースやトナカイの格好に扮して育児院を訪問

新天地育児院を 1977年から支援し続ける

岡山市に拠点を置き、中国地方を中心に関東から九州まで、「ハリウッド」のチェーン名で約30ホールを展開する成通グループ。創業は1948年（法人化1959年）と古い。

グループの拡大とともに、成通ではCSR活動や社会貢献活動にも早くから取り組んできたが、その積み重ねの上に、現在取り組んでいる公益財団法人マルセンスポーツ文化振興財団の活動、省エネ&ECO活動、震災支援活動などがある。マルセンスポーツ文化振興財団は岡山県のスポーツ・文化の振興・発展を図ることを目的に、成通を中心に2004年に設立されたもので、スポーツや文化活動に対する助成、表彰、イベントなどの開催、広報啓発育成事業などを行っている。

さらに、成通が長く取り組んでいる社会貢献活動の象徴的なものが、岡山市にある児童養護施設「新天地育児院」に対する支援活動である。同育児院は、1887年に誕生した日本初の児童養護施設とされる「岡山孤児院」を前身とする施設で、孤児救済に身を捧げ、「児童福祉の父」と呼ばれた石井十次氏（1865～1914年）が設立したものである。

成通では、その設立目的に共鳴した先代社長が1977年から毎年、同育児院を訪れ、入所する子どもたちのためにクリスマス会を催しているが、1993年からは現在の社長である千原行喜さんがその活動を引き継ぎ、継続実施して

いる。昨年12月24日にも実施され、これで39回目となった。

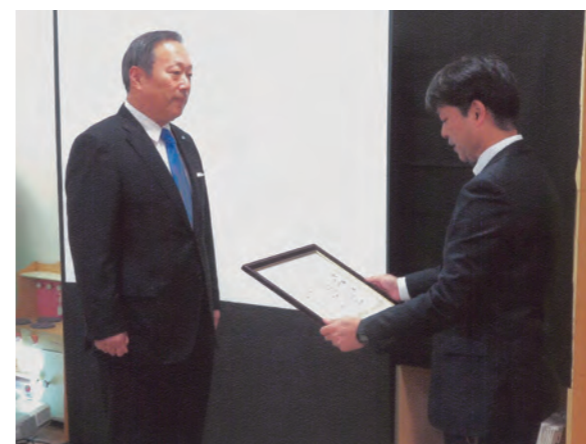
サンタクロースに扮して子どもたちに プレゼント

当日、千原行喜社長、岡山県遊技業協同組合岡山支部（岡山市ばちんこ業協会）の片岡和久事務局長、成通グループ社員など17名が、サンタクロースやトナカイの格好に扮して同育児院を訪問。クリスマスのプレゼントとして、子どもたちに50インチの大型テレビ1台のほか、お菓子の詰め合わせやケーキなどが配られた。また、施設に対して慰問金40万円（成通グループと岡山支部の共同寄付）が贈呈された。



子どもたちへのプレゼントと一緒に体操を行った

サンタクロースやトナカイの訪問に、入所する子どもたちは大喜び。プレゼントを受け取った後、一緒に「アンパンマン体操」をしたり、大型絵本を読んだりして盛り上がった。子どもたちからは、「お菓子がうれしい」「テレビで大好きなアニメが見たい」などの声が出たほか、施設からは「毎年、この時期に心温まる贈り物をしていただきありがとうございます」と謝辞が述べられた。この訪問の様子は地元紙の山陽新聞が取材し、翌日の紙面に掲載された。



長期にわたる支援活動に対し育児院から感謝状を受領

このほかにも成通グループではさまざまな社会貢献活動、地域貢献活動に取り組んでいるが、やはり長年にわたって継続しているものに、盲導犬育成事業支援番組『with盲導犬』（KSB瀬戸内海放送）への協賛があり、昨年は日本盲導犬協会より感謝状が授与された。ホールごとに地域で必要とされる活動に積極的に参加していることも特徴である。例えば、大阪市旭区にあるホールでは、地域の小学生たちが登下校する際に、路上で安全を見守る「子ども見守り隊」の活動にボランティアで参加しているが、年間で延べ約400人が参加するという。また、岡山市にあるNPO法人「旭川を日本一美しい川に育てる会」の活動に協力し、納涼花火大会翌日に行われる清掃活動に毎年、参加している。